



校訓

なかよく かしくく たくましく

ちがいを豊かさに 自分に夢と自信を

令和5年12月19日 第17号 文責 梶原 圭一



◆◆◆「水俣に学ぶ肥後っ子教室」◆◆◆

12月14日(木)に、5年生は「水俣に学ぶ肥後っ子教室」に出かけました。この教室の目的は、水俣の現地を訪ね、もやい直しや環境教育の進む今の様子を見学したり、講話を聞いたりすることにより、日本の高度経済成長期の負の側面である水俣病による犠牲がいかに大きく悲惨なものであるか、また生活環境を守ることがいかに大切であることを理解することにあります。また、公害の原点「水俣病」が部落差別の構造と似ており、大きな人権問題であることを事前学習を通して理解し、差別をしない、させない、許さない気持ちを育てることを目的としています。

5年生は、事前学習をしっかりと行ってきたことが、一人ひとりの持参していたノートから分かりました。また、講話を聞く様子や掲示してあるものを観察する姿から、学びに向かう気持ちが伝わってきました。講話をしていただいた方々も子どもの真剣な態度を褒めていただき、講話が終わった後に、「一生懸命聞いてくれていることが伝わってきて、話すこちらもつい熱が入ってしまい、時間をオーバーしてしまいました。」と話されていました。

解散式の際に、「この学習は、現地に行き終わりでなく、ここからがスタートです。これから全員で、今日の学びを深めていきましょう。」と伝えました。この経験を生かし、身近な環境に優しく、そしていじめや差別を許さないという気持ちを大切に「なかまづくり」を、さらに進めていきたいと思ひます。



◆◆正しい知識を身に付けて◆◆



12月11日(月)に、6年生を対象に「薬物乱用防止教室」を行いました。最近、若者の薬物にまつわるニュースをよく目にするようになりました。誤った認識のまま遭遇してしまうと、取り返しのつかない選択をしてしまうかもしれません。大切なことは、正しい知識を身に付けるとともに、誘惑に乘らず、「ダメ」と言える強い意志と態度を身に付けることだと思います。学校薬剤師の先生を講師としてお迎えし、薬物にはどんな危険が潜んでいるかを話していただきました。自分の命と大切な人たちの命を守るために、しっかりと判断できる人へと成長してほしいと思ひます。

◆ロアツソ熊本の選手と交流◆

12月12日(火)に地元のJリーグクラブ「ロアツソ熊本」の4選手と吉本町長、二殿教育長が来校され、給食の時間に交流する時間を作ることができました。現役のJリーガーと触れ合うことができて、子どもたちも大興奮でした。質問タイムでは、サッカーを続ける中



で苦しかったときの気持ちの持ち方や夢を大切にすること等について話していただきました。子どもたちにとって、大変有意義で思い出に残る時間となりました。

◆災害に備えて◆

熊本地震の経験から、日頃より災害に備えることが重要であるという教訓を私たちは学びました。あつてはならないことですが、いざというときに備え「火災避難訓練」を実施しました。当日は消防署の方にも来ていただき、子どもたちの避難の様子を見て、注意点等についてお話いただきました。災害時に大切なことは、状況をよく見聞きし、自らの命を守ることを最優先に考えて判断し、行動する力です。みんなで常に考えて生活していきましょう。

